

平成29年度 全国学力・学習状況調査の調査結果について

平成29年9月29日

足立区教育委員会

文部科学省が平成29年4月18日（火）に実施した「平成29年度全国学力・学習状況調査」の調査結果について下記のとおりお知らせします。

1 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ります。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てます。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立します。

2 調査対象

国・公・私立学校の小学校第6学年、中学校第3学年 原則として全児童・生徒
足立区実施校数 小学校69校 中学校35校 全校実施

足立区調査人数

(単位：人)

科目 対象学年	国語		算数・数学		児童生徒 質問紙調査
	A	B	A	B	
小学6年生	4,764	4,764	4,764	4,768	4,765
中学3年生	4,287	4,284	4,284	4,284	4,286

3 調査内容

① 教科に関する調査（国語、算数・数学）

【問題A】 主として「知識」に関する問題

- ・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容
- ・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能
などを中心とした問題

【問題B】 主として「活用」に関する問題

- ・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
- ・様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力
などに関わる問題

② 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

【児童生徒に対する調査】

- ・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

【学校に対する調査】

- ・指導方法に関する取組や人的・物的な3教育条件の整備の状況等に関する調査

4 「教科に関する調査」の概要

①小学校 各教科の平均正答率 (%)

	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B
足立区 ※	76.0	58.9	81.3	47.3
東京都 (公立) ※	76	60	81	49
全国 (公立)	74.8	57.5	78.6	45.9

②中学校 各教科の平均正答率 (%)

	国語 A	国語 B	数学 A	数学 B
足立区 ※	75.0	68.9	61.7	45.3
東京都 (公立) ※	79	74	66	50
全国 (公立)	77.4	72.2	64.6	48.1

※今年度より、文部科学省による報道発表では、各地方自治体の平均正答率は整数で公表されることとなりました。

足立区においては、より緻密に全国平均値と比較するため、上記表では足立区の平均正答数をもとに平均正答率を小数点1位（端数は四捨五入）まで計算して公表します。

なお、東京都（公立）の各教科の平均正答率は、小数点以下が公表されていない（平成29年9月29日現在）ため、整数のまま参考として掲載しています。

<用語の解説>

平均正答数	児童生徒の正答数の平均
平均正答率	平均正答数を百分率で表示 ○国語A、国語B、算数・数学A、算数・数学Bごとの平均正答率は、それぞれの平均正答数を設問数で割った値の百分率 ○学習指導要領の領域、評価の観点、設問ごとの平均正答率は、それぞれの正答児童生徒数を全体の児童生徒数で割った値の百分率
全国（公立）	全国の公立学校
東京都（公立）	東京都の公立学校
全国平均値	全国（公立）における平均正答率
東京都平均値	東京都（公立）における平均正答率
全国回答割合	全国（公立）の児童生徒の児童生徒質問紙調査における回答割合
東京都回答割合	東京都（公立）の児童生徒の児童生徒質問紙調査における回答割合

5 各学年・教科の設問別調査結果及び課題分析と改善の方向性

※この調査では、一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しません。このため、各区分の平均正答率を平均しても全体の平均正答率と一致しません。

【小学校6年生】

【国語A：主として知識】

分類・区分別集計結果

分類	区分	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
			足立区	東京都 (公立)	全国 (公立)
学習指導要領 の領域等	話すこと・聞くこと	1	74.2	72.4	69.2
	書くこと	2	61.6	61.7	60.6
	読むこと	3	69.5	72.7	70.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	11	79.2	79.1	78.0
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	0	—	—	—
	話す・聞く能力	1	74.2	72.4	69.2
	書く能力	2	61.6	61.7	60.6
	読む能力	3	69.5	72.7	70.2
	言語についての知識・理解・技能	11	79.2	79.1	78.0

【国語B：主として活用】

分類・区分別集計結果

分類	区分	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
			区	東京都 (公立)	全国 (公立)
学習指導要領 の領域等	話すこと・聞くこと	3	65.7	66.8	64.9
	書くこと	5	55.3	55.3	53.4
	読むこと	3	50.5	51.9	49.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	0	—	—	—
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	3	42.6	42.9	41.7
	話す・聞く能力	3	65.7	66.8	64.9
	書く能力	5	55.3	55.3	53.4
	読む能力	3	50.5	51.9	49.2
	言語についての知識・理解・技能	0	—	—	—

【国語A】及び【国語B】の課題分析と改善の方向性

国語Aでは、区全体の平均正答率が全国平均値を+1.2ポイント上回りました。領域別では、「話すこと・聞くこと」が全国平均値を+5.0ポイント上回りましたが、「読むこと」は-0.7ポイント下回りました。課題として、俳句の情景を捉えることが挙げられます。俳句に表現されている季節や風情、句に込めた思いなどを思い浮かべるとともに、五音や七音を中心としたリズムから、国語の美しい響きを感じ取りながら音読をしたり暗唱したりすることを通して、文語の調子に親しむことができるように指導する必要があります。

国語Bでは、昨年度は区全体の平均正答率が全国平均値を下回っていましたが、今年度は全国平均値を+1.4ポイント上回るとともに、全ての領域で全国平均値を上回りました。問題別に見ると、「スピーチメモのよさをグループの話し合いの様子の言葉を使って40字以内で記述する設問」に課題が見られます。日ごろから、目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるようにスピーチメモ等を活用し、話の構成を工夫して「話す」とともに、複数のテキストを関連付けて「読み」、そこから必要な情報を取り出して「書く」学習の機会を多く設定する必要があります。

【小学校6年生】

【算数A：主として知識】

分類・区別集計結果

分類	区分	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
			足立区	東京都 (公立)	全国 (公立)
学習指導要領 の領域	数と計算	8	84.1	82.2	80.6
	量と測定	2	69.0	72.8	68.8
	図形	2	82.0	82.5	81.1
	数量関係	5	85.6	82.3	79.6
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	0	—	—	—
	数学的な考え方	0	—	—	—
	数量や図形についての技能	8	81.3	79.5	77.7
	数量や図形についての知識・理解	7	81.7	82.2	79.7

【算数B：主として活用】

分類・区別集計結果

分類	区分	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
			区	東京都 (公立)	全国 (公立)
学習指導要領 の領域	数と計算	5	53.6	55.8	52.8
	量と測定	2	46.8	48.8	47.0
	図形	1	16.9	19.2	13.2
	数量関係	8	42.5	43.4	40.0
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	0	—	—	—
	数学的な考え方	9	46.7	48.3	45.4
	数量や図形についての技能	0	—	—	—
	数量や図形についての知識・理解	2	51.5	52.3	48.6

【算数A】及び【算数B】の課題分析と改善の方向性

算数Aでは、区全体の平均正答率が全国平均値を+2.7ポイント上回りました。領域別・観点別の正答率では、全ての項目で全国平均値を上回っており、基礎的・基本的な知識・技能が着実に身に付いてきています。「整数の除法の結果を分数を用いて表す設問」では、無答率が4.6%と算数Aの中で最も高く、計算の原理を理解していない誤答も見られます。計算の原理をしっかりと理解させ、計算技能を習熟させていくことが課題です。

算数Bでは、区全体の平均正答率が全国平均値を+1.4ポイント上回りました。「仮の平均を用いた考えを解釈し、それを適用し平均値も求める設問」では、無答率が14.3%と高く、平均正答率も24.5%と低い状況です。示された考え方を解釈したもの、与えられた条件を理解していない誤答が多く見受けられました。示された考え方を活用して、発展的に考察し、処理することに課題があります。

A問題、B問題とも日々の授業改善、補充学習等の成果で着実に正答率が上がってきています。今後は、問題を解決する過程で「計算の意味」と「計算の仕方」を関連付けて、知識・技能を確実なものにし、対話的な言語活動を一層重視し、筋道立てて理由や解き方を説明できるようにする必要があります。また、問題から必要な情報を的確に抽出し、数量の関係を言葉や式を使って一般化して表現ができるようにすることや、必要な情報を選択して、数学的に処理したり、示された方法を場面に応じて適用できるようにすることが必要です。引き続き足立スタンダードを重視し、「主体的・対話的で深い学び」をさらに進めていきます。

【中学校3年生】

【国語A：主として知識】

分類・区別集計結果

分類	区分	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
			区	東京都 (公立)	全国 (公立)
学習指導要領 の領域等	話すこと・聞くこと	4	73.3	78.2	75.4
	書くこと	4	83.9	87.0	85.7
	読むこと	6	72.1	76.3	73.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	18	74.5	77.8	77.2
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	0	—	—	—
	話す・聞く能力	4	73.3	78.2	75.4
	書く能力	4	83.9	87.0	85.7
	読む能力	6	72.1	76.3	73.8
	言語についての知識・理解・技能	18	74.5	77.8	77.2

【国語B：主として活用】

分類・区別集計結果

分類	区分	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
			区	東京都 (公立)	全国 (公立)
学習指導要領 の領域等	話すこと・聞くこと	3	70.0	73.9	72.4
	書くこと	4	56.9	62.7	60.8
	読むこと	4	68.4	73.0	72.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	1	35.3	43.5	41.4
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	3	51.7	57.4	55.9
	話す・聞く能力	3	70.0	73.9	72.4
	書く能力	4	56.9	62.7	60.8
	読む能力	4	68.4	73.0	72.1
	言語についての知識・理解・技能	1	35.3	43.5	41.4

【国語A】及び【国語B】の課題分析と改善の方向性

国語A、国語Bともに区全体の平均正答率が全国平均値を下回っています。平均正答率の全国平均値との差は、国語Aは昨年度－1.0ポイントから今年度－2.4ポイントに、国語Bで昨年度－1.2ポイントから今年度－3.3ポイントに拡大しています。領域別・観点別では、全ての区分で全国平均値を下回っています。

国語Aでは、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に関する設問のうち、「漢字を書く（組織のキボを大きくする）設問」では、平均正答率が全国平均値を－13.5ポイント下回っており、無答率も24.3%（全国15.8%）と高い状況です。また、語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うことに課題があります。

国語Bでは、「表現の仕方について捉え、自分の考えを書く設問」に課題が見られます。

小学校と同様に、複数のテキストを関連付けて「読み」、そこから必要な情報を取り出して「書く」学習の機会を多く設定する必要があります。引き続き、身につけさせたい力に基づいた授業のねらいの明確化、生徒の実態に応じた様々な言語活動の工夫、生徒の主体的な言語活動を充実させて、社会生活に必要な国語の能力の基礎を確実に定着させていく必要があります。

【中学校3年生】

【数学A：主として知識】

分類・区別集計結果

分類	区分	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
			区	東京都 (公立)	全国 (公立)
学習指導要領 の領域	数と式	12	68.7	72.7	70.4
	図形	12	62.8	67.8	66.0
	関数	8	53.7	57.6	57.4
	資料の活用	4	53.2	58.6	57.6
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0	—	—	—
	数学的な見方や考え方	0	—	—	—
	数学的な技能	20	65.0	69.9	68.2
	数量や図形などについての知識・理解	16	57.6	61.4	60.2

【数学B：主として活用】

分類・区別集計結果

分類	区分	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
			区	東京都 (公立)	全国 (公立)
学習指導要領 の領域	数と式	3	42.7	48.2	46.3
	図形	6	43.9	49.6	47.1
	関数	3	48.3	53.2	50.8
	資料の活用	3	46.8	49.7	49.1
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0	—	—	—
	数学的な見方や考え方	10	34.2	38.8	36.8
	数学的な技能	3	57.4	64.4	61.2
	数量や図形などについての知識・理解	2	81.3	84.9	85.1

【数学A】及び【数学B】の課題分析と改善の方向性

数学A、数学Bとも改善の成果は見られますが、依然として区全体の平均正答率及び領域別・観点別の正答率で全国平均値を下回っており、基礎的・基本的な知識・技能及び知識・技能を活用する能力に課題があります。

A問題では、「正負の数の四則計算」、「文字式の計算」、「方程式の計算」において、それぞれ無答率が全国平均値より高く、計算技能の習熟に課題があります。また、計算技能だけではなく、「与えられた場面『 \dots は \dots の関数である』と表現する設問」では、無答率が高く(28.5%)、関数の意味理解や数学的用語の使い方に習熟していないことが見受けられます。数量関係に着目し、数学的に思考・判断し、文字式で表したり、方程式に表したりすることに課題があります。

B問題では、「問題解決の方法を数学的に説明する設問(無答率39.0%)」、「事柄が成り立つことを説明する設問(無答率30.5%)」、「数学的な表現を用いて説明する設問(無答率39.4%)」においてそれぞれ無答率が高く、全国平均値と比較しても高い状況です。数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則について理解を深めるとともに、事象を筋道立てて考え、根拠を明らかにして数学的に表現し説明していく能力を高めていく必要があります。

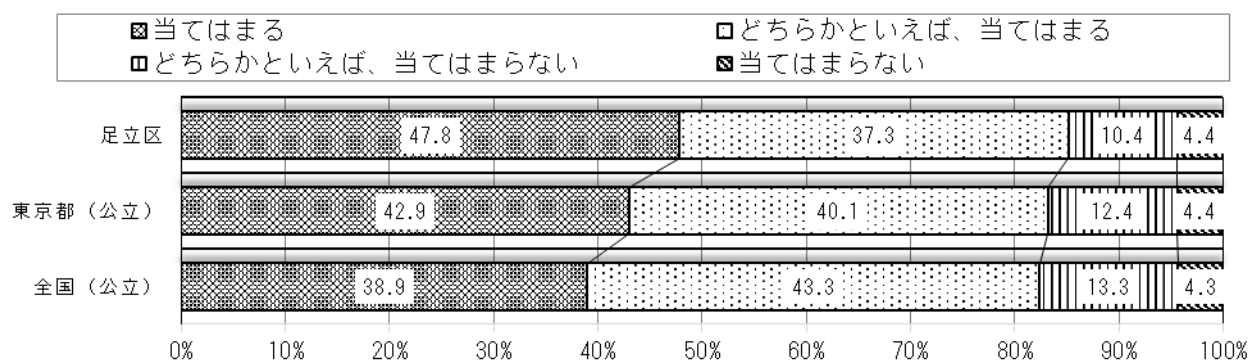
足立スタンダードに基づく授業を徹底し、数学的な原理・法則についての意味指導を重視するとともに、原理・法則の理解に裏付けられた確かな知識及び技能を習得させていく必要があります。また、問題を解く過程で、数学的な概念や原理・法則や数学的な表現・処理の仕方を活用できるように、数学的考察力・表現力を高めていく必要があります。

6 「生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査」結果の概要

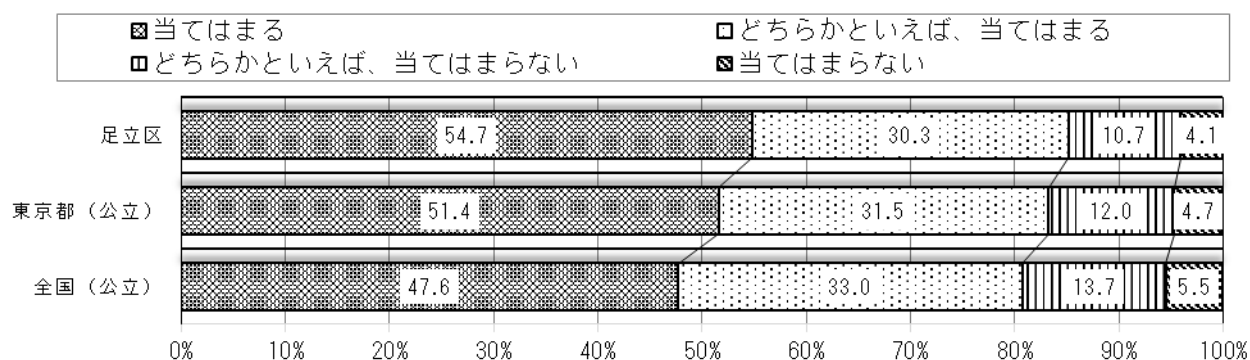
【小学校6年生】

○「授業の内容はよく分かりますか」という質問に、肯定的（「当てはまる」＋「どちらかといえば、当てはまる」）に答える児童の割合は、国語、算数ともに、東京都回答割合や全国回答割合を上回っています。教員自らの授業改善や、足立スタンダードの活用、教科指導専門員の指導等により、「分かる授業」が浸透したことによる結果と考えられます。

「国語の授業の内容はよく分かりますか」

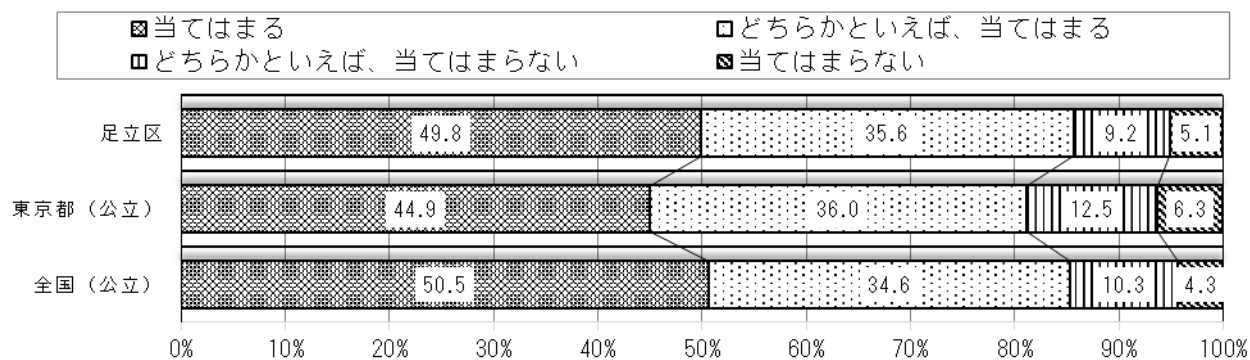


「算数の授業の内容はよく分かりますか」

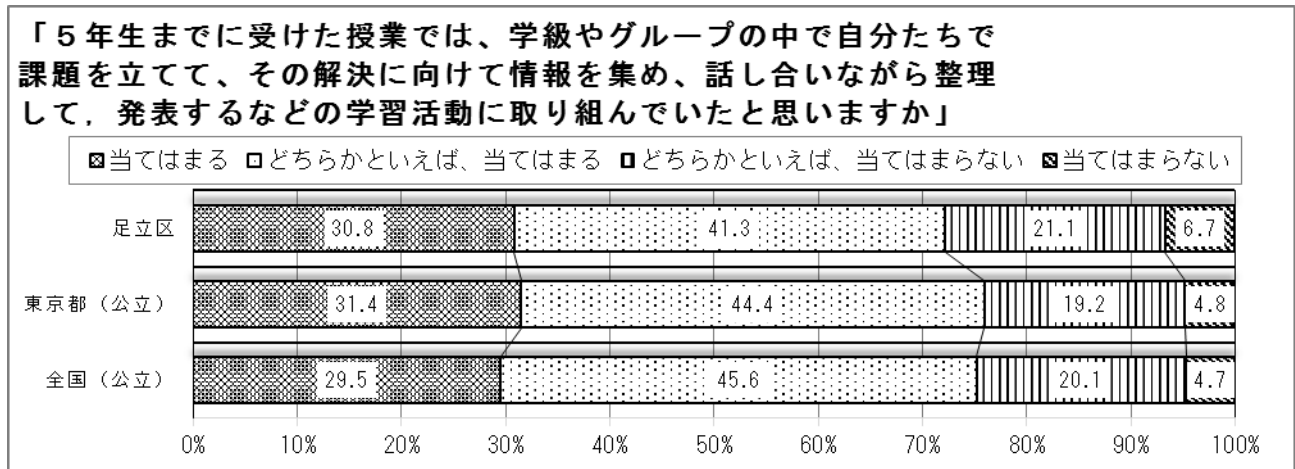


○「先生は分かるまで教えてくれますか」という質問に、肯定的（「当てはまる」＋「どちらかといえば、当てはまる」）に答える児童の割合は、85.4%であり、東京都回答割合を上回り、全国回答割合と同程度です。教員が丁寧な学習指導に努めた結果と考えられます。

「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれますか」



○「授業で話し合いの学習活動に取り組んでいたと思いますか」という質問に肯定的（「当てはまる」＋「どちらかといえば、当てはまる」）に回答した児童の割合は、72.1%であり、東京都回答割合及び全国回答割合を下回っています。足立スタンダードの徹底と授業改善をさらに進め、「主体的・対話的で深い学び」を実現していく必要があります。

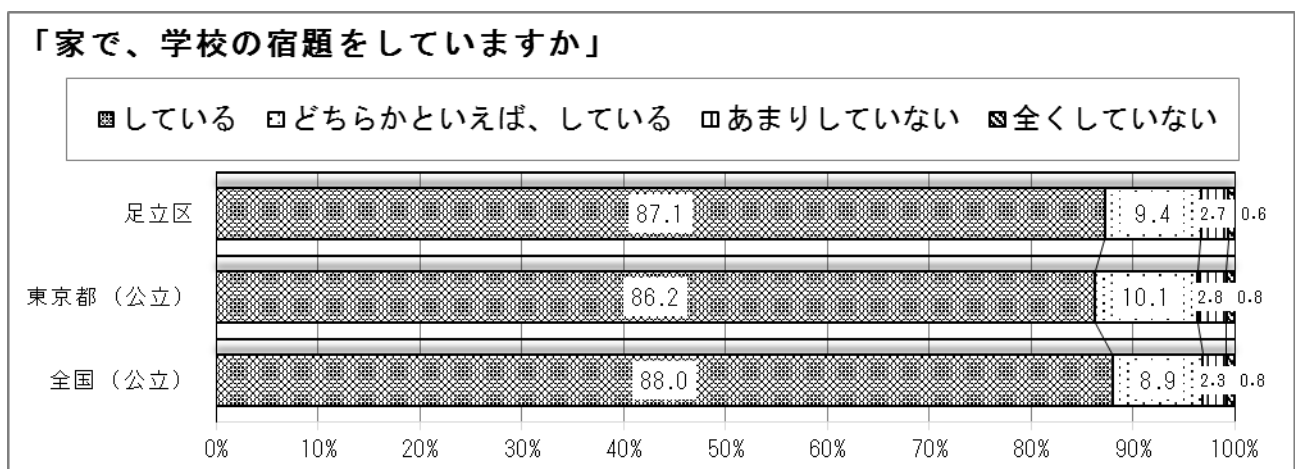


○「家で学校の宿題をしていますか」という質問に「している」と回答した児童の割合は、87.1%であり、東京都回答割合と全国回答割合とほぼ同程度です。

一方で、「平日（月～金）の学校の授業時間以外での勉強時間」に関する質問では、勉強時間が1時間未満（「1時間より少ない」＋「30分より少ない」＋「全くしない」）の児童の割合は39.8%で、東京都回答割合や全国回答割合を上回っています。

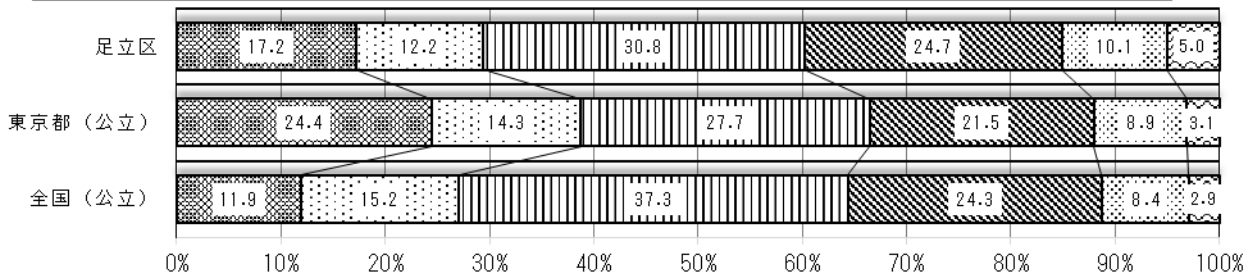
また、「休日（土・日）の勉強時間」に関する質問でも、勉強時間が1時間未満（「1時間より少ない」＋「全くしない」）の児童の割合は50.5%であり、こちらも東京都回答割合や全国回答割合を上回っています。

これらの学校の授業時間以外の学習時間が少ない児童に対し、宿題の出し方を工夫して学習量の増加を図っていくことや、学校の放課後等の補充学習等において効果的に学習理解を深めさせていくなど、さらなる取り組みが必要です。



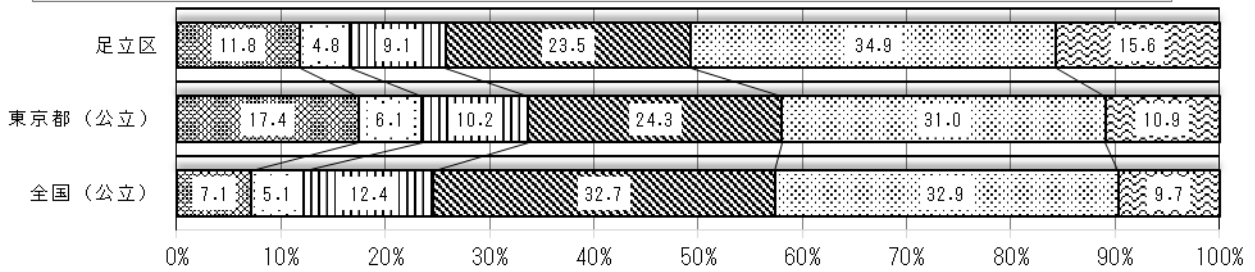
「学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）」

- 3時間以上
- 2時間以上、3時間より少ない
- 1時間以上、2時間より少ない
- 30分以上、1時間より少ない
- 30分より少ない
- 全くしない



「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）」

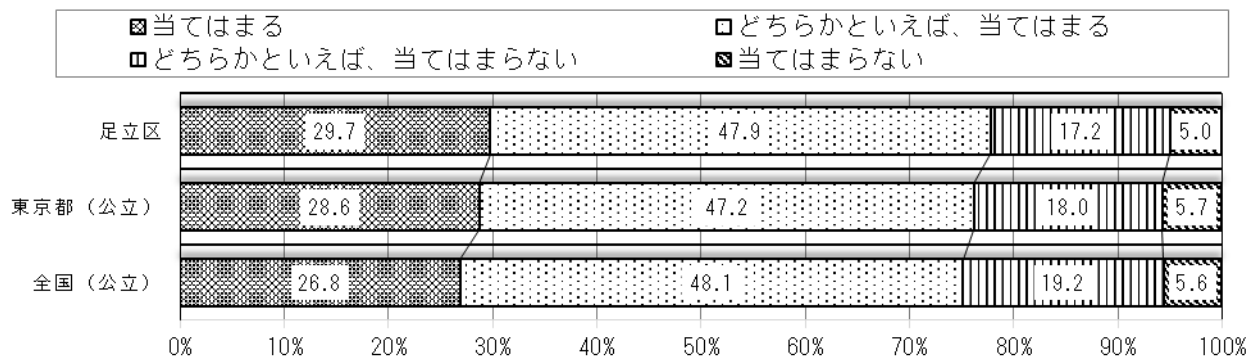
- 4時間以上
- 3時間以上、4時間より少ない
- 2時間以上、3時間より少ない
- 1時間以上、2時間より少ない
- 1時間より少ない
- 全くしない



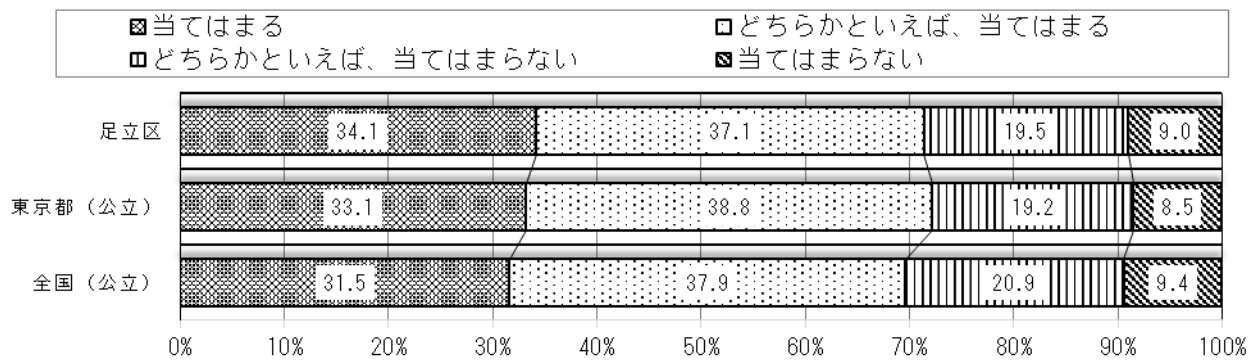
【中学校3年生】

○「授業の内容はよく分かりますか」という質問に、肯定的（「当てはまる」＋「どちらかといえば、当てはまる」）に答える生徒の割合は、国語では東京都回答割合及び全国回答割合を上回り、数学では東京都回答割合と同程度で、全国回答割合を上回っています。教員の授業改善や、足立スタンダードの活用と教科指導専門員の指導による「分かる授業」が浸透しつつあることがうかがえます。

「国語の授業の内容はよく分かりますか」

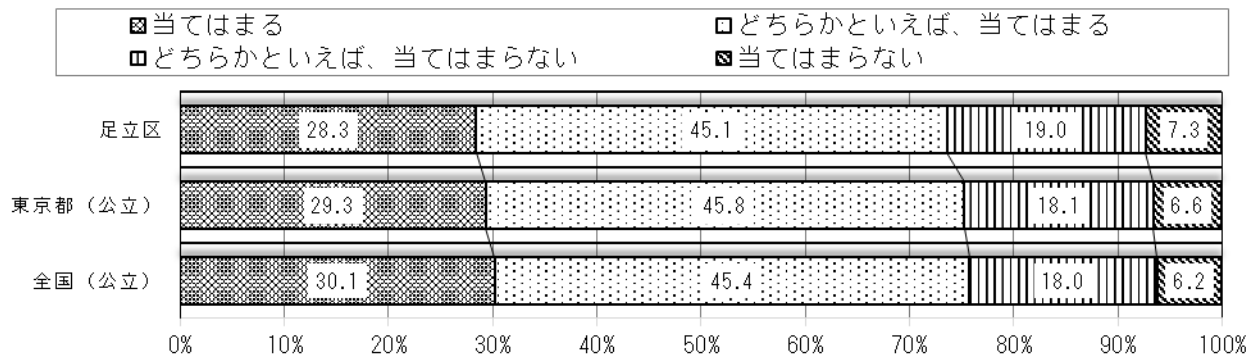


「数学の授業の内容はよく分かりますか」

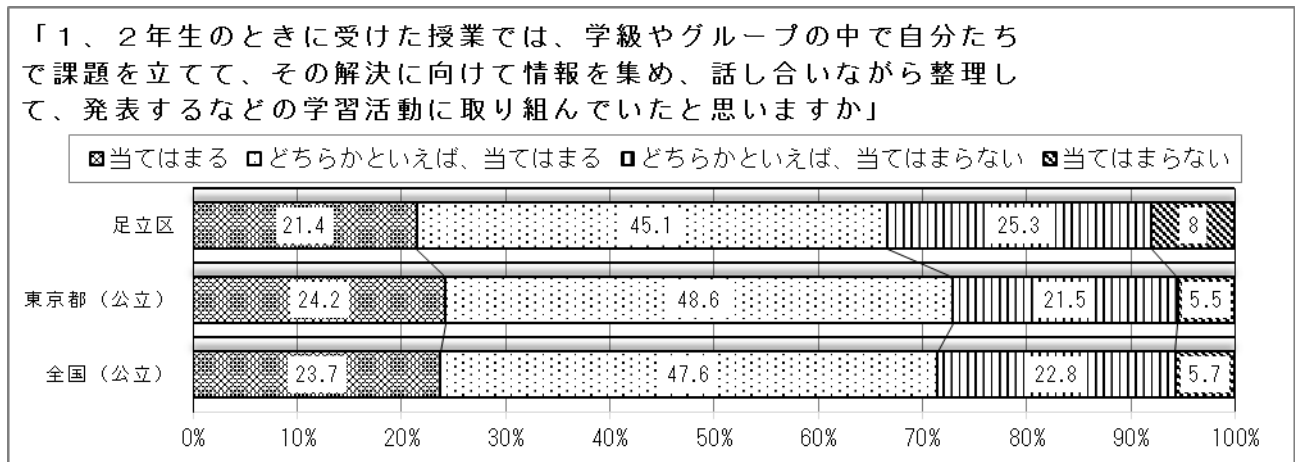


○「先生は分かるまで教えてくれますか」という質問に肯定的（「当てはまる」＋「どちらかといえば、当てはまる」）に答える生徒の割合は、73.4%であり、東京都回答割合や全国回答割合を若干下回っています。中学校での学習内容は学習理解の積み重ねが特に重要であるため、教員は生徒個々の躓きに応じて丁寧に指導をしていく必要があります。

「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれますか」



○「授業で話し合いの学習活動に取り組んでいたと思いますか」という質問に肯定的（「当てはまる」＋「どちらかといえば、当てはまる」）に回答した児童の割合は、66.5%であり、東京都回答割合及び全国回答割合を下回っています。足立スタンダードの徹底と授業改善をさらに進め、「主体的・対話的で深い学び」を実現していく必要があります。

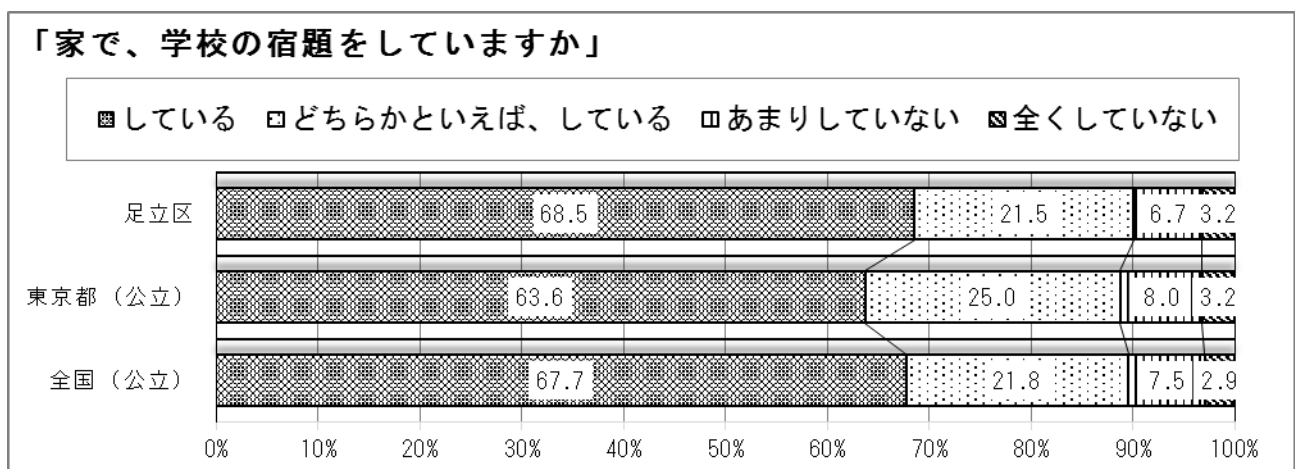


○「家で学校の宿題をしていますか」という質問に「している」と回答した生徒の割合は、68.5%であり、東京都回答割合と全国回答割合を上回っています。

一方で、「平日（月～金）の学校の授業時間以外での勉強時間」に関する質問では、勉強時間が1時間未満（「1時間より少ない」＋「30分より少ない」＋「全くしない」）の生徒の割合は35.5%であり、東京都回答割合や全国回答割合を上回っています。

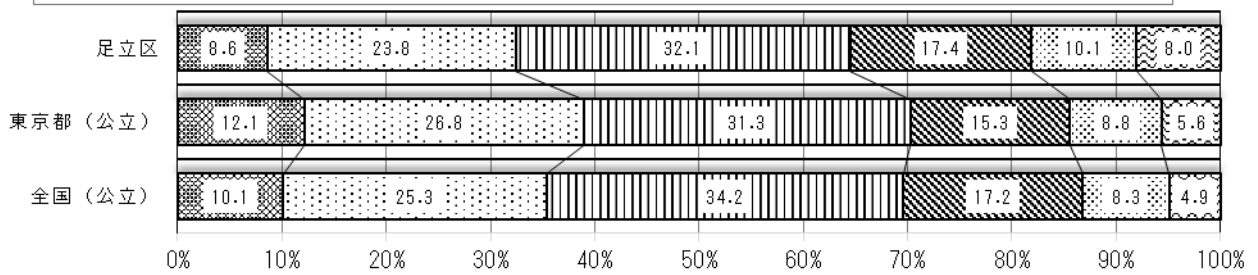
また、「休日（土・日）の勉強時間」に関する質問では、勉強時間が1時間未満（「1時間より少ない」＋「全くしない」）の生徒の割合は42.2%であり、東京都回答割合や全国回答割合を大きく上回っています。

このような学校の授業時間以外での学習時間が少ない生徒に対し、1年生の段階から宿題の出し方を工夫するなどして、家庭学習の習慣化や学習量の増加を図ることが必要です。また、学校においても、放課後等の補充学習を効果的・継続的に実施し、生徒個々の1日の学習量を増やしていく取り組みも重要となっています。



「学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）」

- 3時間以上
- 2時間以上、3時間より少ない
- 1時間以上、2時間より少ない
- 30分以上、1時間より少ない
- 30分より少ない
- 全くしない



「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）」

- 4時間以上
- 3時間以上、4時間より少ない
- 2時間以上、3時間より少ない
- 1時間以上、2時間より少ない
- 1時間より少ない
- 全くしない

